

▶ 第3章

新境地を開く韓国の防衛産業

——米欧・中ロ対立で増す役割

日本経済新聞社 ソウル支局記者 安全保障エディター

甲原 潤之介

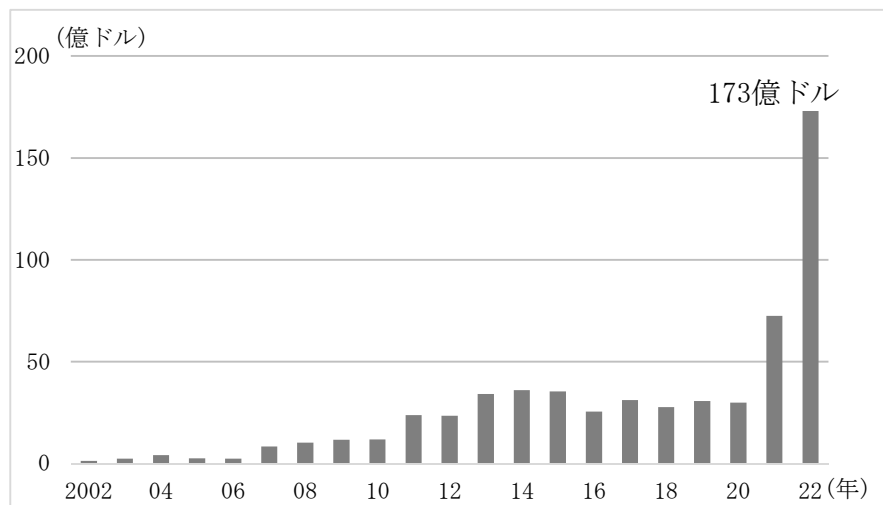
【ポイント】

- ▶ 韓国製兵器の海外輸出が増えている。ロシアのウクライナ侵攻以降、ウクライナに隣接する東欧や北欧諸国からの受注が相次ぎ、年間の輸出額は100億ドルを突破した。北朝鮮との軍事的緊張を抱え続けてきた国の兵器として信頼性が高まり、戦車などの陸上兵器を中心に韓国製を導入する動きが加速している。
- ▶ 韓国の防衛産業は朴正熙政権が1970年代に進めた「自主国防」政策の下で産声をあげた。李明博大統領のトップセールス外交によって輸出の機運が高まり、文在寅政権末期に輸出額は急伸。尹錫悦政権はそれを引き継いでさらに産業を成長させている。
- ▶ 世界の兵器市場は冷戦後に一旦縮小したが、2010年代に入って再び増え始めた。米欧と中ロの対立により、米欧陣営の国は経済安全保障の観点からも、中ロ製兵器は導入しにくい。米欧の防衛産業は冷戦後に縮小を余儀なくされ、不足する生産力を韓国が補う構図が生まれている。



注目データ

韓国の防衛産業の輸出額



資料：韓国産業研究院・韓国大統領府

注：受注ベース